

留学体験談

農学部 小林さくら

新潟大学から初の長期留学生として、ペラデニア大学で学んだこと、感じたことをお伝えしたいと思います。

私は2018年4月からペラデニア大学での交換留学を開始しました。ちょうど私が到着したころは、スリランカ国内の大学で、職員のストライキが発生しており、講義もなく、大学内の設備も使えない状態でした。

渡航前にはストライキについて知らされておらず、いつ終わるかも分からず、不安でいっぱいでした。「今週中に終わる」と言う噂が立っても、次の週まで続いている…という状態がしばらく続きました。先生も、職員も、いつ終わるのか誰も分からない状態でした。「よし、やるぞ!」と意気込んでいた時期だったので、何もできない状況がとても残念で、焦燥感を募らせてしまったことを覚えています。結局、4月は何も講義を受けずに終わってしまいました。

講義が始まってしばらくは留学生の私が珍しく、どう振る舞っていいのか分からなかったのか、現地の学生から話しかけられることはありませんでした。私から話しかけても、恥ずかしがって直接返事が返って来なかったり、数人いる現地の学生の代表一人が応えてくれるような状況でした。私はこれまでに大学のプログラムでタイ、ロシアを訪れたことがありましたが、このような状況は初めてでした。

講義が始まって1か月程して、野外講義で遠くに赴いたことがありました。これを機に、学生と話すようになりました。スリランカは昔、イギリス領だったので、英語がある程度通じると予想していましたが、大学を出ると通じない場面も多く、また大学でも学部によって英語のレベルに差がありました。講義は英語で行われるきまりがありましたが、1年生向けの講義ではシンハラ語が使われたり、学生同士のディスカッションもシンハラ語が使われたので、私ともう一人の日本人学生はとても苦労しました。シンハラ語で話していた部分を教えてほしいと教授や学生に話しても大事なことはないからと流されてしまったことも多々ありました。

講義は1コマ90分~180分という長丁場で、一日2、3つ取っていたと思います。教授だけでなく、講師が行う講義もありました。その講師の方たちがとても親身になってくださり、私が出席していなかった分の講義を教えてくださいたり、講義とは関係ない生活面の相談にもものってくださいました。ペラデニア大学には、日本で博士号を取得した教授がたくさんいらっしゃり、突然日本語で話しかけられることが多かったです。中には、自身の調査で学外に行かれる際に、同行させてくださった教授もいらっしゃいました。また、食事に誘っていただいたこともありました。しかし、残念なこともありました。休講の連絡が入らなかったり、毎月のように学生運動で休みになる日があったことです。連絡先を先生方に教えていても、休講や変更の連絡が入らず、一人で待っていたということが何度もありました。そのため、講義の前日に直接先生や他の学生に確認するようにしました。

生活面では、日本とは全く違いました。私は約一年の留学期間に4回引っ越しをしました。1,2軒目は洗濯機とお湯のシャワーがありました。しかし、最初の2軒と4軒目は学外のアパートだったため、大変な思いもしました。スリランカでは雨期には毎日のように停電が起こるので、料理や調べ物が自分の好きなタイミングでできませんでした。また、外国人が珍しいため、町を歩くとよく声をかけられまし

た。親切に声をかけてくる人もいれば、電話番号や住所を聞いて来たりと危ない人もいました。中には、肩に手を回して来たり、腕をつかんで来る人や、勝手に私の写真を撮るような人もいました。危険を察する能力や、相手を怒らせない断り方などを身に付けたと思います。

もちろん嫌な思いばかりではありませんでした。4 軒目は知り合いの友人の家族の一室を借りました。そこでは、大家さんが私を家族のように受け入れてくださり、一緒に料理をしたり、テレビを見て過ごしました。それまでは、英語で精いっぱいだったのでシンハラ語を覚えようとはしていませんでしたが、大家さん家族ともっとコミュニケーションを取りたいという思いから、少しずつ、シンハラ語を学びだしました。

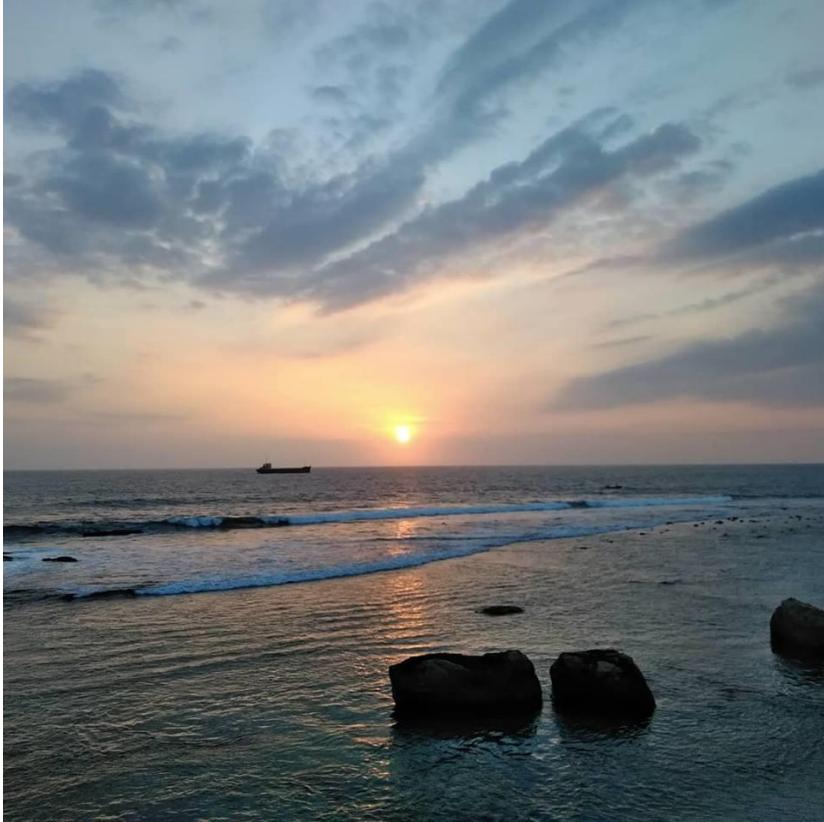
私はトビタテ！留学 J A P A N 日本代表プログラムに採用されたので、実践活動としてインターンシップを行いました。政府運営の研究所でした。私はスパイスの機能性成分の分析と、スパイスを用いた食品の製造を目的としていました。スリランカは医療・教育が無償なので、研究所まで十分なお金が回ってきません。毎日のように停電や断水が起これ、また実験器具やサンプルが足りないということが多かったです。どうしても、地元の学生の実験が優先されてしまうこともありました。大学で十分には納得のいく学習ができず、インターン先に期待していたので、正直ショックは大きかったです。インターン先に行っても、office が空いていない、活動が無いという日も多々あったので、インターンを早めに切り上げました。

私の当初の目的は、スパイスの機能性成分を化学分析し、その結果を踏まえて、最も効率的な加工法・調理法を考察することでした。計画通りの研究は出来ませんでした。私は身近でスリランカの食習慣を目の当たりにしており、その問題点にも気がついていました。そこで、スリランカの問題に焦点を変えました。スーパーを巡り、減塩や低糖商品が置いてあるか、どんな商品が人気か調べたり、J I C A の方に紹介していただき、現地の医師にお話を聞くこともできました。スリランカは 2009 年までの内戦で教育がとまっていた時期がありました。どのような食事が身体によいかを知らない人が沢山います。食育の大切さを強く感じました。将来は、食で社会貢献したいという強い思いが芽生えました。今回の留学で自分の目標、軸が出来ました。

留学では、思い通りに行かないことが多いです。これは、どの国に行っても共通だと思います。自分では丁寧に振る舞ったつもりでも、相手を不快にしまったり、その逆も然り、です。文化や宗教が異なると考え方、生活様式も全く異なります。留学先では、自分は minority です。否応なしにも、合わせるしかないという場面も出てきます。どうやったら、相手も自分もストレスなく過ごせるか、トラブルを回避できるかを考察する能力がつくと思います。

留学先では、自分から声を上げないと誰も気がついてくれません。自分の状況を伝える力なんて、留学前にはなくていいと思います。留学先で自然と身に付きます。切羽詰まってくると、人間は自然と訴える力を発揮できると思います。もし、留学をためらっている方がいたら、恐がらずに、飛び出してほしいと思います。自分は決してしっかりしているタイプとは言えません。それでも、一人で行って、一人で帰ってきました。留学中も留学交流推進課や大学の先生とメール等で相談できるので、全て一人で乗り越えなくてはいけないという訳ではありません。

異国の地で毎日予想外のことが起こります。失敗することもあります。それでも私は得たものの方が多いと感じています。日本には無い自然や食べ物に出会ったり、たくさん現地の友人ができます。異国で過ごすことで、改めて日本の良さ、問題点にも気づきます。留学で、ぜひ、自分の殻を破ってください！



ゴール



タミル料理